

PVY-N 測定試薬 HOKUDO

単品試薬内容

(2~8 保存)

製品コード	製品名	内容	包装	備考
209401	PVY-N 固相抗体 5	抗 PVY-N マウスモノクローナル抗体	1.1mL	5プレート用
209402	PVY-N 固相抗体 20	抗 PVY-N マウスモノクローナル抗体	4.4mL	20プレート用
409401	PVY-N 標識抗体 5	ALP 標識抗 PVY-N マウスモノクローナル抗体	1.1mL	5プレート用
409402	PVY-N 標識抗体 20	ALP 標識抗 PVY-N マウスモノクローナル抗体	4.4mL	20プレート用
509401	PVY-N 抗体セット 5	PVY-N 固相抗体+標識抗体セット	1.1+1.1mL	5プレート用
509402	PVY-N 抗体セット 20	PVY-N 固相抗体+標識抗体セット	4.4+4.4mL	20プレート用
509403	PVY-N 陽性コントロール 50	PVY-N 組換え蛋白 (10 倍濃度)	1mL	50テスト用
509404	PVY-N 陽性コントロール 200	PVY-N 組換え蛋白 (10 倍濃度)	4mL	200テスト用
609401	ELISA 試薬セット	96 ウェルマイクロプレート	5 枚	5プレート用
		コーティング用緩衝液	110mL	
		10% ジェタノールアミン溶液	110mL	
		PBS (10 倍濃度)	100mL	
		PBS-T (10 倍濃度)	100mL	
		プレートシール	10 枚	

操作法

■準備するもの

【器具、器材、機器】

- ・96 ウェルマイクロプレート
- ・マイクロプレートプレートウォッシャー、あるいは洗浄瓶
- ・マイクロプレートリーダー (主波長 405nm 付近)
- ・マイクロピペット (20~1000 μL)
- ・ペーパータオル

【試薬】

- ・精製水
- ・コーティング用緩衝液 (0.05M 炭酸緩衝液 pH9.6)
- ・10% ジェタノールアミン溶液 (pH9.8)
- ・PBS (リン酸緩衝生理食塩液 pH7.4)
- ・PBS-T (PBS-0.05% Tween20)
- ・P-ニトロフェニルリン酸 2 ナトリウム (P-NPP、酵素基質)
- ・2M 水酸化ナトリウム液 (反応停止液)

■試薬の調製

1. 固相抗体液 : 1プレート用としてコーティング用緩衝液 21mL に固相抗体 210 μL を加える。
2. 標識抗体液 : 1プレート用として PBS-T 21mL に標識抗体 210 μL を加える。
3. PBS : PBS (10 倍濃度) 100 mL に精製水 900 mL を加えて 10 倍希釈する。
4. PBS-T : PBS-T (10 倍濃度) 100 mL に精製水 900 mL を加えて 10 倍希釈する。
5. 基質液 : 1プレート用として 10% ジェタノールアミン溶液 21mL に P-NPP 21mg を溶解する。(1mg/mL)
6. 陽性コントロール : 2重測定用に陽性コントロール (10 倍濃度) 50 μL を PBS-T 450 μL で 10 倍希釈する。

測定方法

1. 固相抗体液をマイクロプレートの各ウェルに 200 μL ずつ添加する。
2. マイクロプレートシールを貼り、37°C で 3 時間あるいは冷蔵で一晩静置する。
3. マイクロプレートを PBS-T で 3 回洗浄する。
4. PBS-T を磨砕液として調整したサンプル及び陽性コントロールをウェルに 200 μL ずつ添加する。(2重測定)
5. マイクロプレートシールを貼り、室温で 1 時間あるいは冷蔵で一晩反応させる。
6. マイクロプレートを PBS-T で 3 回洗浄する。
7. 標識抗体液を各ウェルに 200 μL ずつ添加する。
8. マイクロプレートシールを貼り、室温で 1 時間反応させる。
9. マイクロプレートを PBS-T で 3 回洗浄する。
10. 基質液を各ウェルに 200 μL ずつ添加する。
11. マイクロプレートシールを貼り、室温で 30 分間反応させる。
12. 反応停止液を各ウェルに 50 μL ずつ添加し、軽く混和する。(あるいは、すぐに測定する)
13. マイクロプレートリーダーで 405nm における吸光度を測定する。
14. 陽性コントロールが強く発色していることを確認する。

製造元

株式会社 **ホクド**

〒063-0849 札幌市西区八軒 9 条西 10 丁目 4 番 28 号
TEL.011-641-7507 FAX.011-644-9209



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社